

療育研修会実施状況

大分県支部

参加数 48

テーマ ◆病院から一人暮らしへ
講師 会社員 川野 陽子

◆介護から学んだこと
介護福祉士 福田 晃一郎

実施場所 (独)国立病院機構西別府病院 作業棟



実施を終えて（感想等）

参加者の感想等、必ず記入して下さい。

- 自立とは自分で生き方を決めること
子供の頃を知っているだけに 彼女の姿は輝いてみえました。
- 彼女の頑張りには同じ病気の子ども達にとっても
大きな刺激となりました。
- 今介護とは無縁でいられない 現実にはもっときびしい
当事者の話なので 余計に 心を打たれました。

療育研修会

大分県 支部

◆テーマ 病院から一人暮らしへ

講師 川野 陽子

川野さんは子供の頃から知っている人達の前での話は緊張している様でした。自分は長く生きられないと思い、未来を見つめることがなかったが、成人を迎え、今なら出来るのではと退院し、家族や友人に支えてもらい短大卒業。その後たくさんの人との出会いで、重度障害者には無理だと思った一人暮らしをしている人も知り大きな衝撃を受けた。そして自分には24時間介護が必要なることを行政にお願いに行き、生きていくための補助を受けられるようになった。

常にヘルパーさんは居ても、全ては自分。食事も自分が味付け。一ツツが新鮮。大きな夢と少しの勇気があれば、自分らしく生きている川野さん。

◆テーマ

介護から学んだこと

講師 福田 晃一郎

福田さんのお話は、患者よりも保護者の方が聞き入っていました。施設での現場では卒によりも利用者の初安全、介護者の不足で思うような手をかけてあげられない現実。病院では3ヶ月ごとに退院を責められるために家族は精神的に追い込まれます。これは今でも続いています。

いくらプロの介護者がいても在宅での介護は難しい。介護を毒である母親が背負ってしまい母親まで病気になる。父が亡くなる数年間は入院できるギリギリ

病院にいて、その後は家での介護という生活が続けました。家では母も自分も患者さんは一人。それが入院では行き届かないことばかりで、自分も仕事では小さいという言葉で過ぎていくことを気づかせてもらった。ここからの生き方として利用者様を父親のように接していきたい。